

2019年8月1日

内閣総理大臣 安倍晋三 殿
式典委員会委員長 菅 義偉 殿

〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷 1-23-14
日本同盟基督教団「教会と国家」委員会
委員長 柴田智悦

「即位礼正殿の儀」次第概要の決定に対する抗議声明

私たち日本同盟基督教団「教会と国家」委員会は、政府が「即位礼正殿の儀」の次第概要において、天皇が「高御座」から即位を宣明した後、首相が万歳三唱する、と決定したことに対して以下の理由で抗議いたします。

1. 抗議の対象とする事実

2019年6月20日、政府は、「即位礼正殿の儀」の次第概要における、内閣総理大臣の所作について、「内閣総理大臣は、正殿内において、寿詞(よごと)を述べ、万歳三唱をする」と決定しました。

2. 政教分離原則に違反し、信仰の自由を侵害する

即位礼正殿の儀において天皇が上る「高御座」は、「天照大神が皇孫瓊瓊杵命(ににぎのみこと)を天つ高御座につけ、神器を授け、我が国を統治する」という天孫降臨神話に由来する「玉座」であって、天皇が世界に君臨する「天子」であることを意味します。さらに皇位継承の証として高御座に置かれる「剣」と「勾玉」も、天孫降臨神話に基づく三種の神器の一部です。従って、「即位礼正殿の儀」自体が神話に基づく宗教性を持ちますから、これに国事行為として国費を用いることは、政教分離原則に違反しています。

さらに、天皇が高御座の壇上から即位を宣明することは、私たちの上に、私たちの信仰する神以外の存在が置かれることとなります。私たちは、聖書に記された三位一体の神こそがこの世を支配し、歴史を導かれている唯一絶対の神であると信じておりますから、この「即位礼正殿の儀」は、私たちの信仰の自由を侵害するものです。

3. 国民主権に違反し、戦争を彷彿とさせる

また、天皇のいわゆる「おことば」に対して首相が高御座の下から「寿詞」を述べ、さらに、高御座上の天皇を見上げて「万歳三唱」をし、その他の参列者はさらに低いところに位置する中庭から「万歳三唱」をすることは、戦前戦中のように国民が臣下として天皇を崇め奉っていることになり、憲法の原則である国民主権に違反しています。

さらに、それはかつて、日本国民のみならず、日本が侵略した国々の人々に対しても、国民儀礼と称して宮城遥拝や神社参拝を強要した戦時中の出来事を彷彿とさせます。特に韓国においては、神社参拝強要に反対した多くのクリスチャンが投獄され、中には殉教した者もあり、閉鎖させられた教会も数多くありました。

日本国憲法は、そのようなかつての戦争に対する反省として、「国民主権」「平和主義」「基本的人権の尊重」を三大原則として掲げたのです。しかしながら、この度決定された、「即位礼正殿の儀」と、そこにおける首相の所作は、そのどれをも犯すこととなります。

以上の理由から、私たち日本同盟基督教団「教会と国家」委員会は、今回の「即位礼正殿の儀」の次第概要における政府の決定に対して強く抗議いたします。